

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04690

研究課題名(和文) 日本留学での適応と帰国後の再適応が多国籍留学生に与える影響のホリスティックな研究

研究課題名(英文) Holistic Research on the Influence of Adjustment in Japan through Study Abroad Experience and Re-Adjustment in Home Countries on Multinational Students

研究代表者

恒松 直美 (Tsunematsu, Naomi)

広島大学・森戸国際高等教育学院・准教授

研究者番号：60363008

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、北米・南米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの多国籍留学生の日本留学に関わる異文化適応と帰国後の再適応について、深い内面の心情を探り、それらの体験が再来日やその後の人生に与える影響をホリスティックに捉えた質的研究である。文化的背景・言語・地域性・価値観・行動・人間関係構築における相違や、自国文化と日本文化との文化的距離などに着目し、留学前の期待・不安要因、留学中の異文化適応とカルチャーショック、帰国後の再適応と逆カルチャーショックの実態を探り、留学体験の複雑性と様々な影響が可視化された。文化的・社会的・個人的な多面的要因が留学と留学後の日本との関係性や人生選択に影響することが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

北米・南米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの多国籍留学生の留学前・留学中・帰国後の体験をホリスティックに捉え、異文化適応・再適応の実態と、留学体験が再来日行動や将来的な日本との関わりにも与える影響を考察した。留学生の人生の分岐点及び自己形成の一部としての留学に関わる体験を質的調査により包括的に捉えた。アイデンティティ、自己形成も含む心理・文化・制度・社会に関わる多面的要因と個人的要因が留学生の異文化適応と再適応の体験とその後の日本との関わりにも影響することが分かった。留学生と派遣留学参加者も包含した留学前・留学中・留学後に関わる包括的支援体制を異文化間理解教育も含め考察していく基礎となった。

研究成果の概要(英文)：This research investigates cultural adjustment and readjustment experiences of international exchange students from North America, South America, Europe, Oceania, and Asia through their study abroad experience in Japan. By using qualitative method, the research holistically examined the influence of students' intercultural experiences. The research found students' intercultural experiences in host society are influenced by various factors, such as cultural backgrounds, language proficiency, value systems, behavioral codes, belief systems, and cultural distance between home country and Japan. The research disclosed multiple factors, such as aspirations before their departure, culture shock and intercultural challenges in Japan, and reverse culture shock and readjustment challenges after reentry, influence students' experiences. Cultural, social, and personal factors complexly influence each student's study abroad experiences, and their relationship with Japan and future life decisions.

研究分野：教育社会学

キーワード：異文化適応 異文化間理解 カルチャーショック 逆カルチャーショック アイデンティティ ホリスティック 多国籍留学生 日本留学

## 1. 研究開始当初の背景

「日本留学での適応と帰国後の再適応が多国籍留学生に与える影響のホリスティックな研究」をテーマとした本研究の目的は、日本の大学に留学した多国籍の留学生の日本への適応と帰国後の再適応やカルチャーショック及び逆カルチャーショックの体験が再来日の行動やその後の人生に与える影響を包括的に捉えることである。留学を学生の人生の自己形成の一部として捉え、アイデンティティの流動性や世界観の変容に着目し、留学前・留学中・帰国後を含む日本留学に関わる様々な体験と感情が、再来日も含む留学生の人生に持つ意味と影響についてホリスティックに分析することを試みた。本研究を、留学体験をライフコースの視点から捉えた包括的支援体制構築の基礎とし、日本の大学の国際教育の意義ある発展に有益な示唆を得ることを目指した。海外大学で実施されている留学から帰国後の再適応の支援や留学体験を生かすための支援の施策も学び、本研究の分析と大学における新たな留学生支援システムの構築のための糧とする。

**1) 留学生の異文化適応・再適応の質的調査の不足：**留学生の帰国後の再適応に関する質的調査の不足が指摘されてきた。日本では、留学生の日本での異文化適応や日本在住学生の留学先での適応の研究の発展が見られる。日本在住学生の帰国後の再適応の研究は存在するが、日本の大学への留学生の帰国後の再適応の研究は未発展である。海外の研究でも、欧米圏から留学し帰国した学生の再適応の研究はあるが、日本留学に特化した再適応の質的研究は未発展であり、日本から帰国した留学生の再適応の状況やその後の日本との関わりの実態に関わる質的調査は発展していない。

**2) 日本の大学への留学生の文化多様性に着目した異文化適応・再適応の研究の不足：**日本に留学した多国籍留学生の適応や帰国後の自国文化への再適応の実態とその後の人生について、留学生の文化的背景の相違に着目して分析した研究は未発展である。留学生の文化的背景と日本文化との文化的距離や留学生間の差異に着目した適応と再適応の研究は十分発展しておらず、個々の留学生の持つ要因が日本の留学体験とその認識にどう影響しているかが十分可視化されていない。また、文化本質主義的な文化分析への批判も踏まえ、社会構築主義も含む様々な理論も含め、文化差と文化のカテゴリーの枠組みを超え、個々の学生の特性やその複雑性、背景、変容に焦点をあてた分析を必要とする。

**3) 人生の一通過点としての留学体験と留学の持つ多角的意味の分析の不足：**従来の研究に見られるような、留学先の文化に適応すべき存在として留学生を捉える枠組み (Marginson, 2014) を外し、留学を自己形成の過程として捉え、留学生のアイデンティティの複雑性やその変容、留学生主導による行動や自己効力感、リーダーシップなどに焦点をあてた質的調査が必要であると考え。留学とは留学先での適応と帰国後の再適応の枠組みでは捉えきれず、人生観・世界観に影響し、その後の人生やキャリア選択にも影響するが、日本留学に関して十分研究されていない。留学生による日本留学の意義づけや留学体験における日本に対する見解がどうその後に影響したかを包括的に問う研究は未発展であり、海外の研究者も日本社会の知識が十分でない場合、踏み込めない領域である。

## 2. 研究の目的

近年、国家戦略としての高度人材育成と留学生獲得競争が世界規模で進展する中、日本の大学においても留学生増加政策や留学生の日本での定着促進を進める動きがある。政府の推

進する高度人材獲得・外交戦略・国際理解促進の観点からも、留学生が日本への留学体験をどう受け止め、帰国後にどう日本社会と関わることを希望するかは重要課題である。大学が国際競争力を高める一環として留学生獲得を掲げる現状況下、日本の大学への留学後の再来日と日本と関わるキャリア構築等に影響する要因の分析は喫緊の課題である。日本の大学院進学や日本で就職した留学生の体験にも鑑み、本研究では以下に焦点をあてた。

- 日本に興味を持ち留学した留学生は、日本と世界とをつなぎ、日本と世界との外交関係や社会的・文化的な関わりにも影響を与える「人」である。世界各国からの留学生の日本留学による異文化間移動の体験を留学生の人生の流れの中での1つの体験として包括的に捉え、人生の多感な時期に、日本の大学・文化・社会と関わる体験が、留学生の自己形成、世界観、自国と日本に対する見解、日本での大学院進学などの再来日行動・日本と関わるキャリア構築などの人生の選択に与える影響について考察する。
- 日本留学でのカルチャーショック・適応及び帰国後の逆カルチャーショック・再適応・逆ホームシックの体験と再来日行動との関連を解明し、留学生と日本とを留学期間を超え長期的に結ぶ包括的支援のあり方を考察する。世界各国の様々な留学生からの影響や帰国後の友人関係やグローバル・ネットワークも分析する。
- 多国籍の留学生の文化的背景の違いや日本との文化的距離(Hofstede, 2011)の違いが、留学生の日本での適応・帰国前の将来への不安・帰国後の再適応・再来日行動にどう影響するかを、文化的・社会的・制度的・精神的側面から解明する。Hofstedeによる集団主義と個人主義、権威への態度、不確定要素の回避に関する違いにも着目し考察すると同時に、本質主義的な分析の枠組みを超え、各学生が持つ固有の要因について詳細に分析する。留学生のアイデンティティの複雑性・流動性や変容、自己実現にも着目する。

### 3. 研究の方法

日本の大学への留学に関する適応・逆カルチャーショックと再適応・再来日行動について、様々な留学生の留学前・留学中・帰国後の段階別の状況について質的調査を行った。対象は2003年～2020年度に広島大学短期交換留学プログラム(Hiroshima University Study Abroad Program, HUSA)に参加した北米・南米・オセアニア・ヨーロッパ・アジア出身の交換留学生とした。深い内面を引き出す半構造化インタビューを、学生の言語能力に合わせて英語又は日本語で行い、留学生の生の声をナラティブにより引き出した。文化的背景・日本との文化的距離・信条・留学目的・留学中の使用言語・学内と学外の交流関係などの留学生間の違いにも着目し、多国籍・多文化の留学生の適応・再適応と再来日行動の関係性と、日本留学に関わる体験が留学生のその後の人生に与える影響を包括的に捉えることを試みた。

- ◆ 2003年より本プログラム運営・授業・インターンシップ授業・地域との連携プロジェクト・国際教育交流など全般的に交換留学プログラムに関わる中、個々の留学生の日本留学における多様な適応状態を見てきた。日本での適応のプロセスと帰国後の再適応の体験について文化・言語・地域性の多種多様な背景を持つ留学生の声を直接聴き、要因を詳細に抽出した。100名を超える留学生及び元留学生へのインタビュー(留学前・留学中・帰国後2か月～15年後)、及び参考に日本人学生・他の留学生へのインタビューを実施した(全体の延インタビュー約300回)。

①来日前：留学生の日本の大学に留学する前の意識・期待・懸念事項・不安など

- ②留学中：留学生の日本の大学での留学生活における適応と自己省察
- ③帰国後：留学生の帰国後の逆カルチャーショック・再適応・逆ホームシック
- ④日本留学と関わるネットワーク構築・再来日の展望・実際の再来日行動

#### 4. 研究成果

##### 1) 留学体験の包括的理解

北米・南米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの多国籍留学生の留学前・留学中・帰国後の体験をホリスティックに捉え、学生の異文化適応及び再適応の実態と、再来日行動や将来的な日本との関わりとの関係性を質的調査により捉えたことで、これまで可視化されていなかった留学生の留学前後も含む全体像の一部が詳細に見えてきた。同時に、留学期間を超えた時間的なつながりの軸とともに、その時間的な流れの中での様々な事象や要因の多層性に着目し留学生の留学体験を包括的に捉えた。本研究の重要な成果は、ホスト国での留学期間を超えた時と場を包含しつつ、「留学」研究で不可視であった部分について留学生の「声」を可視化して考察したことである。多くの留学生が、帰国後も日本留学を様々にリフレクションし、思いを変容させ、日本と自身との関わりや再来日について考えを巡らせる姿を、留学生の生の声で聴けたことは、本研究の大きな成果である。質的調査により、平素語らない留学生の内面の心情を声にする場を創り、日本留学の体験を渡日前から帰国後、そしてその後の人生までを連続して捉えることができた。帰国直後や日本での就職による再来日後など、様々な段階において、日本留学中の学びの意味も変容している。他の留学生との関係性、課外活動で築いた友人関係、地域の人々や企業・行政関係者との接触や教員からの示唆について、時を経て人生経験を積む中で、学生は様々に意味づけをし、変容しつつ受け止めていた。

##### 2) 要因の複雑性と多面性及び留学生の個人的要因による相違

多国籍留学生の留学前の学生の期待・不安要因、留学中の異文化適応とカルチャーショック、帰国後の再適応と逆カルチャーショックの実態がインタビューにより明らかとなった。心理・文化・制度・社会に関わる多面的要因に加え、様々な個人的要因が留学生の留学生活とその後に影響を与えていることが分かった。留学前の各学生の個人的な背景や経歴、日本留学の目的、日本語・英語能力とそれによる人間関係構築等により学生の体験とその認識も異なる。難易度の高いインターンシップや国際的体験学習への挑戦による自己効力感、学内・学外での新しい交流の機会の拡大や新しい場面での人との関りの開拓、日本の行動様式や価値観に対する見解、他の留学生や日本人学生との関係性構築、担当教員との関りと接触がもたらす影響など、多くの面で個人的な相違は大きい。日本文化の受容性による差も、日本社会との関わりの開拓に差異を生んでいる。受容性の形成や日本との関りにおける自己認識については、個人的相違に着目した研究を要する。本研究は、多角的視野から留学生支援の充実化を図るための施策を練る基礎ともなった。文化的背景・言語・地域性・価値観や行動の相違、自国文化と日本文化との文化的距離は影響要因としてあるが、多国籍留学生の日本留学における適応・再適応の体験はあまりに複雑かつ多面性を持つものであり、多くの多面的要因が留学生一人一人の留学生活とその後的人生に影響している。

##### 3) 「カルチャーショック」「異文化適応」の枠組みの再考と新しい視点の導入

留学は、留学生の人生の1つの分岐点であり、ホスト国での体験が留学生のその後のホスト国と世界との関わりにもたらす影響は多大となる可能性を持つ。その影響力に鑑みても、留

学生が留学生生活を意義あるものと認識するかは、留学生自身のみでなく、留学生がその後関わる世界に影響する。異文化間理解と国際教育の専門的知識を生かした教育的介入の不可欠性も可視化できた。留学生の体験は必ずしも「カルチャーショック」「逆カルチャーショック」や「異文化適応」「再適応」という枠組みで十分に表現できるものではなく、様々な要素が複雑に絡み合い、様々な感情を生み出している実態、学生は必ずしも留学中にホスト国の文化に適応せず自己のアイデンティティとホスト国との狭間で揺れる姿、各学生が様々な自己と日本文化との間で折り合いをつける様子が見えた。カルチャーショックと異文化適応や逆カルチャーショックと自国での再適応の先を見据えた教育的支援が重要となる現実も、留学生の体験と見解、海外の文献調査、海外大学の取り組みの例からも明らかとなった。国際学会(Research Presentation in Consortium of Higher Education Researchers (CHER) Conference, University of Jyväskylä, Finland, 2017) 及び海外のセミナー(“Certification of Intercultural Management Seminar,” Hofstede Insights, Helsinki, Finland, 2018; “Winter Institute of Intercultural Communication,” Santa Fe, USA, 2019; “Emotional Intelligence and Diversity Train-the-Trainer Session,” Lake Arrowhead, USA, 2019) に参加したことは、新しい視点から異文化間接触の枠組みを再考する機会となった。また、アメリカの研究者(Dr. Helen Fagan, University of Nebraska)との共同国際シンポジウム “Inclusive Leadership Development and Transformative Collaboration in Culturally Diverse Environment” 「多文化環境におけるリーダーシップ育成と変革的協同」(2019 開催)では、異文化間接触における意義ある教育的介入の方策を再考した。

#### 4) 留学生とホスト国をつなぐための教育的施策の重要性

1 年の交換留学の期間を超え、留学前・留学中・帰国後も包含した留学に関わる包括的支援体制の構築の必要性が明らかとなり、留学生と日本とを留学期間を超え生涯に渡りつなぐ留学支援システムを考案するための基礎が概念化できた。Pengelly (2018)は、留学中に得た異文化に関する知見の応用の重要性や、留学を経験した学生と留学生を連携した国際的支援体制構築の意義、そのための専門的な教育的介入の必要性を論じている。海外の大学への留学は、異文化間コンピテンス習得を意味しない。留学生自身が自己の留学体験について留学前・留学中・留学後を俯瞰して見ることで分析力を養う教育機会の提供が必要である。深い異文化間の洞察力や分析力を学生が養い、自ら異文化間で行動する力をつけ、異文化体験を相対化して見ることで学べる学びの場を持つことで、次へとつなげていける教育が今後重要となる。留学生、留学からの帰国学生、日本在住学生をつなぎ、異文化間理解教育と多文化共生の施策も含む異文化接触の場づくりの意義と、教育的支援がもたらす新しい学びの可能性を認識している。大学・地域・世界を時空を超えて結ぶ教育の発展へとつなげる。

#### <参考文献>

- Marginson, Simon. (2014). Student self-formation in international education. *Journal of Studies in International Education*, 18 (1), 6-22.
- Hofstede, Geert. (2011). Dimensionalizing cultures: The Hofstede model in context. *Online Readings in Psychology & Culture*, 2 (1). <https://doi.org/10.9707/2307-0919.1014>
- Pengelly, Kelly A. (2018). Loving neighbor as self: Translating the study abroad experience into intercultural friendships on the home campus. *Journal of International Student*, 8 (3), 1108-1128.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 恒松直美	4. 巻 24
2. 論文標題 「多国籍留学生在が体験学習から捉えた日本社会との接触における課題」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『留学生教育』	6. 最初と最後の頁 pp. 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naomi Tsunematsu	4. 巻 7
2. 論文標題 "Are International Students Culturally Deficit in Japanese Society? Crossing Cultures Without the Professor's Intervention"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 「広島大学国際センター紀要」(Bulletin of International Center of Hiroshima University)	6. 最初と最後の頁 pp.1-16.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Naomi Tsunematsu	4. 巻 -
2. 論文標題 "Multinational Students' Voices in International Experiential Learning: Standpoint of Culturally Diverse Teams inside Power Relations in Japanese Society"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 CHER (Consortium of the Higher Education Researchers), 30th Annual Conference (Conference Paper)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恒松直美	4. 巻 21
2. 論文標題 「多国籍留学生の国際的体験学習における日本の学校文化との接触 - 多文化共生の課題と教員の教育的介入 -」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 「広島大学留学生教育」(International Students' Education of Hiroshima University)	6. 最初と最後の頁 pp.1-16.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Naomi Tsunematsu	4. 巻 8
2. 論文標題 "Value of Experiential Learning for International Students in Study Abroad Programs in Japan: Intercultural Competence Outside the Western Paradigm"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 「広島大学国際センター紀要」(Bulletin of International Center of Hiroshima University)	6. 最初と最後の頁 pp.1-15.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 恒松直美	4. 巻 18
2. 論文標題 「高校生と交換留学生の異文化間インタラクションの挑戦 -異文化理解教育推進プログラム「吉舎おもてなしプラン」国際交流-」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島県立日影館高等学校研究紀要	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件(うち招待講演 0件/うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Naomi Tsunematsu
2. 発表標題 "Multinational Students Culturally Versatile Adjustment and Readjustment Experiences through Study Abroad in Japan"
3. 学会等名 The 12h Asian Conference on Education (ACE 2020), IAFOR (International Academic Forum) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naomi Tsunematsu
2. 発表標題 "What is Culture Shock?"
3. 学会等名 Glocal Leadership Development: Cooperation of University and Local Society, Development of Self-support System, Project Planning Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naomi Tsunematsu
2. 発表標題 "Meaning of Experiential Learning & Cooperative Learning"
3. 学会等名 Glocal Leadership Development: Cooperation of University and Local Society, Development of Self-support System, Midterm Presentation Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naomi Tsunematsu
2. 発表標題 "Preparing to Return Home: Reverse Culture Shock"
3. 学会等名 Glocal Leadership Development: Cooperation of University and Local Society, Development of Self-support System, Final Presentation Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tsunematsu, Naomi
2. 発表標題 "Reflections on Study Abroad Experiences in Japan: Cultural Factors and Differences among International Students"
3. 学会等名 日本比較教育学会 第55回大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsunematsu, Naomi
2. 発表標題 "Independence and Interdependence of Culturally Diverse Students: Autonomy and Empowerment through Experiential Learning to Cooperate with Local Society in Japan"
3. 学会等名 The 11th Asian Conference on Education (ACE 2019), IAFOR (International Academic Forum) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 恒松直美
2. 発表標題 "Value of Educational Intervention in Cooperative Experiential Learning for Multinational Students in Study Abroad Programs in Japan"
3. 学会等名 日本比較教育学会 第54回大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恒松直美
2. 発表標題 「日本への留学後の再適応：逆カルチャーショック」
3. 学会等名 2018年度春季 日本総合学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恒松直美
2. 発表標題 "Reverse Culture Shock After Going Home From Japan: Holistic Picture of Study Abroad"
3. 学会等名 留学生教育学会 (Japan Association for International Student Education, JAISE) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naomi Tsunematsu
2. 発表標題 "Are International students Culturally Deficit in Japanese Society?: Crossing Cultures Without the Professor's Intervention"
3. 学会等名 日本比較教育学会第53回大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naomi Tsunematsu
2. 発表標題 "Self-evaluation of International Experiential Learning by Multinational Students: Cooperative Learning to Collaborate with Local Agencies in Japan"
3. 学会等名 留学生教育学会(JAISE) 第22回年次大会(総会・研究大会)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naomi Tsunematsu
2. 発表標題 "Multinational Students' Voices in International Experiential Learning: Standpoint of Culturally Diverse Teams inside Power Relations in Japanese Society"
3. 学会等名 CHER (Consortium of the Higher Education Researchers) 30th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naomi Tsunematsu
2. 発表標題 "Emic and Etic Views on Multinational Students' Experiential Learning in Japan: Divergent Interpretations in Different Standpoints"
3. 学会等名 Pacific Circle Consortium (PCC) 2017, the 41st Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

国際シンポジウム「多文化環境におけるリーダーシップ育成と変革的協同」  
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/ntsunema/research/symposium/>  
 Homepage of Dr. Naomi Tsunematsu (恒松直美 研究ホームページ)  
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/ntsunema/>  
 広島大学 研究者総覧 (恒松直美)  
[https://seeds.office.hiroshima-u.ac.jp/profile/ja\\_36378c16b4ad4455520e17560c007669.html](https://seeds.office.hiroshima-u.ac.jp/profile/ja_36378c16b4ad4455520e17560c007669.html)  
 広島大学短期交換留学プログラム (HUSA) ホームページ  
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/en/husa>  
 広島大学短期交換留学プログラム (HUSA) Facebook  
<https://www.facebook.com/husaprogram>

## 6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計13件

国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, "Adjustment & Readjustment," Project Planning Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2018年～2019年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, "Adjustment & Readjustment," Midterm Presentation Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2018年～2019年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, "Adjustment & Readjustment," Final Presentation Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2018年～2019年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, International Students' Self-Support System "Homesickness", Project Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2017年～2018年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, Development of Self-Support System "Homesickness", Midterm Presentation Seminar No.1, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2017年～2018年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, Development of Self-Support System "Homesickness", Midterm Presentation Seminar No.2, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2017年～2018年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, International Students' Self-Support System "Homesickness", Final Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2017年～2018年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, Development of Self-Support System, Midterm Presentation Seminar No.2, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, Development of International Students' Self-Support System, Final Presentation Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, "Discover Hiroshima," Project Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2019年～2020年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, "Discover Hiroshima," Midterm Presentation Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2019年～2020年
国際研究集会 Glocal Leadership Project: Cooperation of University & Local Society, "Discover Hiroshima," Final Presentation Seminar, Hiroshima University Study Abroad Program	開催年 2019年～2020年
国際研究集会 International Symposium "Inclusive Leadership Development and Transformative Collaboration in Culturally Diverse Environment", 国際シンポジウム「多文化環境におけるリーダーシップ育成と - 変革的協同」	開催年 2019年～2019年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

米国	University of Nebraska			
----	------------------------	--	--	--